

メンバーからの声



紙すき職人 菊池三千春

常陸大宮市在住 「西ノ内紙」紙すき38年。仕事の傍ら、奥久慈漆の活性を目指す「山方漆ソサエティ」の事務局を担当。和紙と漆の組み合わせを模索しながら、県北の語々を勉強中です。



宝庫 茨城

たしか茨城新聞県央域ページで「アルベトレッペ」というのを最初にした時、イタリア語?スペイン語?その響きの好きに横文字の不得意の私が覚えてしまった。よく読むと、茨城の方言からのネーミングとのこと、楽しい人達の集まりを連想し、強烈に印象に残った。

15歳の時、神奈川で全国から来た仲間と生活を始めた頃、それまで話していた「ペ」「ベ」を恥ずかしくて止めた。22歳で茨城に戻るまで、かなり徹底していた。再び「ペ」「ベ」を話し始めてみて、この「ペ」「ベ」はいったいどこからきているのか調べると、平安宮廷語の直系で、紫式部や清少納言も日常会話で話していた(遠藤森男 筑波書林 茨城のことば)とのこと。標準語より古い歴史を知り、恥ずかしがっていた6年余を猛省。その後、気になる事象を時々調べると、恥ずかしいどころか、茨城の誇るべき「ひと」「もの」「歴史」「文化」「環境」などその特性多彩さに驚いた。しかし、当時県民自身にこの認識が薄く、当然それらは県外にうまく発信されなかった。

最近ある集会で、「住んでいる街をアピールするためのキャッチフレーズを考えてみよう」というテーマで、話し合った。一つのグループから「宝探しのできる街」はどうか?との発表があった時、なぜか「アルベトレッペ」と重なった。宝とは正しく茨城の特性であり、価値観の個性化・情報の往来手段の発達した今こそ、茨城の特性を現代社会に、発信すれば受け入れられるときではないか、30数年前に自分自身が茨城を再認識したように。

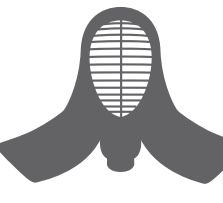
現在 私は、和紙を漉きながら奥久慈漆の活性を目指すグループに所属している。どちらも伝統技術として認められているが、その売れ行きは芳しくない。材料となる「コウゾ」や「ウルシノキ」の品質は、県北の土壌と気候に裏打ちされて日本一と言っても過言ではない。茨城の宣伝下手を吹き飛ばせ! 宝の宝庫茨城とアルベトレッペの対戦マッチ、これは見ものである。

メンバーからの声



金融機関職員 神立裕之

土浦市出身、現在はつくば市北条在住。55歳。既婚。東京への憧れが強く、大学、就職活動と県外脱出を試みるもいずれも失敗。経歴書には常に「茨城」がついてまわるプロフィールの持ち主。ちゃらく生きたいと願いながらも、何故か武道家人生を送る。剣道を永く修行し、現在は居合道を水戸東武館にて学ぶ。サラリーマン人生の終盤を飾るべく鋭意努力邁進中。



私の夢がアルベトレッペ

【出会い】 みんなが幸せになるには、どうすればよい、なにができる、と答えをさがしていた、乙女チックな私。そんなとき、茨城県中小企業団体中央会の主催する農商工等連携人材育成塾で出会ったのが、会社名にパッピーがついていた山本社長。なんか、ハッピーなこと考えてますか? という声掛けにはじまり、女の子が好きなハートを使ってハートフルな、なにかをやりましょうか、というのがこの物語のはじまりです。中央会の助成事業として、気持ちが先走ってしまって、県の担当者や専門家も含めて数度にわたる会議を開いたものの、まるで具現化するには程遠い状態でした。そこに一人の救世主が。デザイナーの倉田氏です。地に足の着いた提案を受け、ポイントを絞った活動を目指すことにしたのです。そうしてだどりついたネーミングがアルベトレッペなんです。私の中では、みんながしあわせになるには、どうすればいいんだ、の切り口が茨城県に焦点を合わせた、納得できる活動になったというわけです。

【サロン】 まずは、色々な考えで化学反応をおこさせよう。思いの数だけ行いがある。茨城県の人達は、同じ思いの人達が集まることはできても、どんな人なのかわからない人達と集まるのが苦手。ワクワクがビクビクになってしまう。であれば、なんだかわからないアルベトレッペという声掛けならば、わからない人達ばかりになるから面白いんじゃないかな。そんな感じで始まったサロンも、それなりに、企画通りに進んでいるかのように、滑らかになってきました。これからも、どんな風になっていくかはわからないし、筋道を立てていくわけじゃないけど、それなりに進んでいくでしょうね。

【イベント】 サロンの化学反応がアルベトレッペ食堂になりました。無計画の無コンセプトの思いつきのイベントが、やりながら、まるで一本の木を掘り進めているうちに仏像が姿を現してきたかのようなコンセプトが、みるみる形作られてきました。コンセプトが生まれると必然的に計画が発現し、まるで長期計画の下、実行されたかのようなイベントに育っていきました。今でも夢のような不思議な感触が残っています。ある意味、邪念のない自然の導きによる行為だけが持つ、恍惚感とも呼ぶのでしょうか。

【夢】 この夢のような快感を、これから一つ一つ体験していきたい。そして、それは、はじめるときに強く念じていた、私の周りにいる人達すべてが、しあわせになっている風景を乙女チックに突き詰めて生きたい、それが私の夢なんです。

メンバーからの声



茨城県職員 澤幡博子

食べ歩きを中心とした「水戸梅日記」というブログを書いています。水戸や茨城で暮らすことについて「自己肯定感」を高めるために、ほんの出来心で始めたのですが、最近では書かないと気持ち悪いくらいになってしまいました。



水戸梅日記的アルベトレッペ

くろばね朝市・hanatoco・お堀の桜のライトアップ・trattoria blackbird・駒村清明堂・backerei brotzeit・Sunny Side Kitchen・鈴木牧場のヨーグルト・鉢の木のどら焼・木村屋本店の水戸の梅・&Sugar・里海邸・KOSAI・こけらや・木内酒造のネストビール・夜梅祭・百段階段でひなまつり・郷の誉・水戸映画祭・鯨ヶ丘・吉河・水戸芸術館・toneriko・ie cafe・いばらきオセロキャラバン・カミスガ・泉町新鮮市・あしたの学校・くるみコーヒー・備前堀・Gigino・カルマ・日立駅・カフェポستن・Café結+1・菓子工房Weizen・大場ぶどう園・ARTISAN Pâtissier ITABASHI・Café Grunpa・飛田勝治農園のほしいも・Maison Weniko・ハンスホルベック・里山のたまり場・山文魚・あぐかる・黒澤醤油店・チュアブルソフト・白凜居・武勇・器而庵・胡桃の木・常陸牧場の撫豚・来福酒造・洋食こぼやし・福来米・盛金WAC・みずほの村市場・水府提灯・居酒屋みのる・茶房かやの木・パン工房イーツアーツ・京遊膳花みやこ・おひさま珈琲・水戸まちづくりの会・吉田屋の吉原殿中・酒沼しじみ・和栗や・midorism・Le blanc・Sunny Sunday・くり〜むの和心・あおぞらクラフトいち・咲野ドーナツ・栗の家・ル・ポワロン・常陸青龍・アミーチ・米発酵アイス・ちゅう心・みそプリン・ゆたり・喫茶室オカエリ。・保和苑・レストラン中台・BENZ103・茨城レストランフェリチタ・陶炎祭・料理茶屋島津・くらし協同館なかよし・ワシントン祭り・高校生ウィーク・真壁のひなまつり・天ぶら瀧口・ポッピー大福・パザパ・ほしいも学校・好文カフェ・欧風膳みよし亭・月刊みと・東会芳・豊田園のりんご・県立歴史館の銀杏並木・紅羽・カリリーブス・あかり家・矢中の杜の守り人・早川ぶどう園・佐川文庫・café la famille・mimai・里美の滝・鹿島神宮・ミルスタ・そば真・茶の間・四万騎農園・白飯家・こぼやしのお菓子・クロサワ・粉雪亭・高月堂・とんかつ楽天・ちよっ蔵・岩崎屋・パブリカアイス・サイバーダイン・そばまさ・旅のCAFÉ・市街地散策ステークス・Singoster LIVING・イタリア食堂faro・にのまえ・圓座・café清ら・K'S CLUB・ガトーデジー・はまぐり屋・ばん家くるーと・森の家庭料理レストラン・春風萬里荘・サイエンスカフェ水戸・MITOワイン・ちどり・赤ちゃんのほっぺ・mo-baco・オーベルジーヌ・曲がり松100円商店街・アルベトレッペ!!

(以上、水戸・茨城を意識した「水戸梅日記」に掲載した記事からのオススメでした。)

ブログ「水戸梅日記」 <http://mitonoume.blog.ocn.ne.jp/>

つまり、人。

本気で地元目向ける。
今までちょっと恥ずかしかったかもしれないけど、
やってみたらおもしろい。
たぶん、日本全国、素敵な物、いい所いっぱいあります。
でも茨城だって負けてない。
そう強く思うのは、こんな人達が
いっぱいいるからです。

ALBETREPPE